（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

２０２３年度（令和５年度）学校評価自己評価表

至誠中学校区	校番１９	福山市立熊野小学校

最終更新日	2024年（令和6年）2月28日

Ⅰ　福山市

ミッション　福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　「福山１００ＯＮＥＮ教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

- コロナ禍においても，アイディアを出し合い，「自分で考えて，決めて，行動する」ということを大切にした教育活動を行っている。
- 至誠中学校区３校の教育活動が，校区全体に共有化され，地域と共に子どもを育てる環境を整備する。

児童生徒の現状

- 積極的に挨拶をすることができ規範意識が高いが，自己肯定感が低い児童・生徒もいる。
- 基礎学力の定着や主体的な学習習慣の確立と活用力及び基礎体力に課題がある。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）	主体的に学び合う力
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	主体的に課題を発見し，協働して解決することができる子ども
中学校区として統一した取組等	授業づくり めざす子ども像の実現に向けて，各校の授業公開を通して協議し，「子ども主体の学びづくり」の充実をめざす。

Ⅲ　自　校

ミッション

確かな学力・豊かな心・健やかな体をもつ児童を育成し，保護者・地域に信頼される学校

学校教育目標

くじけず　まなび　のびやかに　元気いっぱい熊野っ子の育成

現　状

＜児童生徒＞
- 児童アンケート「授業を通してどんな力がつくのか理解している」の肯定的評価は，97.5%であり，児童と教師が授業の中で共有できている。
- 児童アンケート「ライフスキルを学ぶことは，自分の役に立つと思う」の肯定的評価は、97.5%であり，児童が選んで意思決定することや興味をもったことから課題設定するなど，日々の授業の中で実践できた。

＜授業＞
- 総合的な学習の時間を柱とし，算数科「データの活用」，国語科「話す・聞く」「資料を用いた説明文」を中心に教科横断カリキュラムの作成とスキル関連表をまとめることができた。
- 教職員アンケート「子ども主体の学びについて他の教員と対話したり，実践したりしている」の肯定的評価88.8%であった。授業研究後，短期目標を教員全体で協議・決定している。それを定期的に振り返り交流する場を設定し，改善を重ねてきている。　（数値は，2022年１月末）

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）		課題解決力	コミュニケーション力	粘り強さ
めざす子ども像	1・2年	身近な生活体験から，自分の課題に気付いている。	友だちの話をうなずきながら聞き，自分の考えを最後まで伝えている。	自分でやると決めたことやみんなでやると決まったことを最後までやり通している。
	3・4年	課題解決の場面において，自己の課題に適した改善策を考えている。	自分の考えと友だちの考えを類似，相違の立場で比べて聞いている。	あきらめずに，挑戦している。
	5・6年	自己課題解決への計画，実践，評価，改善を繰り返している。	友だちの考えに質問やアドバイスをしたり，自分の考えを相手が納得できるように伝えたりして，互いに認め合っている。	自分で目標を立て，主体的に目標達成にむけて行動している。

研究	テーマ	生きた知識を生み出す「探究する学び」の創造
	内容等	・国語科・算数科を中心に，【レディネス→スキルを明確にした授業→身に付けたスキルの活用（他教科等・日常生活）】の流れをもった授業づくりを行う。 ・教室にスキルの足跡を掲示し，単元で付ける力やその具体的な活用場面を残して，児童がスキルの活用を実感できるようにする。
めざす授業の姿		・単元で身に付くスキルを意識しながら学習している。 ・単元の予習・復習の必要性や，身に付けた単元のスキルを活用する場面を考え，探究する学びの質を高めている。

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立熊野小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日） □指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	最終評価（2月末） □指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	主体的に学ぶ児童の育成	★	新規	国語科・算数科を中心に，くまのステップ【レディネス→スキルを明確にした授業→身に付けたスキルの活用（他教科等・日常生活）】の流れをもった授業づくりを行う。	単元を通して児童が身に付けるスキルを明確にし，「くまのステップ」を児童と共有し，教室に「スキルの足跡」を作成する。	・児童アンケート「授業を通して身に付けたスキルを他の教科で活用しようとした」８０%以上 ・教師は，児童と共有した「くまのステップ」を，「スキルの足跡」として掲示し，整理している。	・児童アンケート「授業を通して身に付けたスキルを他の教科で活用しようとした」肯定的評価　９３%であった。日々の授業で「くまのステップ」を共有している。 ・１学期のスキルの足跡を作成し，教師間で共有し，掲示している。	３	３	・国語の小単元においても，「くまのステップ１」を大切にした授業づくりを行う。 ・単元の終わりに，身に着けたスキルを児童とともに振り返る。	・児童アンケート「授業を通して身に付けたスキルを他の教科で活用しようとした」肯定的評価９３．６%であった。２・３学期のスキルの足跡を作成し，児童と共有できた。 ・「くまのステップ１」のレディネスを丁寧に行い，児童のつまずきを把握して教材準備ができた。	３	３	４	・引き続き「くまのステップ」を行い，スキルを明確にした授業を行う。活動をする際に，身に付けたどのスキルを活用することができるか，児童が考える機会を設ける。
			継続	子ども主体の学びについて理論と実践をつなぐ研修を継続する。	子ども主体の学びづくりに向けて，模擬授業や板書交流を通して対話を重ね，教材への理解を深める。	・教職員アンケート「模擬授業や板書交流を通して子ども主体の学びに向けての授業づくりをしている」８０%以上	・教職員アンケート「模擬授業や板書交流を通して子ども主体の学びに向けての授業づくりをしている」１００%であった。	３	３	・引き続き模擬授業を行い，教材に対する理解を深める。また，いろいろな教科で板書交流を行い，教材への理解を深める。	・教職員アンケート肯定的評価は１００%であった。 ・模擬授業や板書交流では，教材について対話できたが，教材への解釈に差がある。	３	４	３	・模擬授業の前に各自教材研究をし，模擬授業では「自分ならどう発問するか」を協議する。 ・授業を校内外で見て子ども主体の授業づくりについて学ぶ
1	自己実現に向けて未来を切り拓く子どもの育成	★	新規	児童の活躍の場を設定し，自己肯定感を高める。	行事や児童会活動を通して，一人ひとりに役割を持たせる。	・児童アンケート「自分は役に立っていると思う」肯定的評価８０%以上	・児童アンケート「自分は役に立っていると思う」74.7%であった。学校生活の中で日々の係活動や委員会，運動会で役割などを児童にもたせた。	３	２	・行事や児童会活動ごとにアンケート実施とふり返りを行い，その都度児童の実態把握に努め児童の活躍を認めていく。	・児童アンケート「自分は役に立っていると思う。」91.9%だった。学校行事と児童会活動を関連させて，振り返りの際に，児童の頑張りや成長を認め合う時間を各学年とった。	３	３	３	・行事や児童会活動の過程を見取りつつ，認め合いの場や児童の振り返りの際に，アンケートを活用していく。
			継続	体力テストの結果から課題となる項目について取り組む。	子どもが主体となった体力向上計画を実施する。	・準備運動等で，児童が考えた運動を取り入れている。	・休み時間や体育の時間で走ったり，遊具を使ったりする遊びを児童が考え，取り組んだ。	２	２	・中学校の先生などGTから学ぶ機会を設定し，子どもが学んだことを実践する場を設ける。	・「脚力」「筋力」を鍛えるために，ＧＴから学ぶ場を設定できたが，子ども主体の課題解決とはならなかった。	２	３	２	・児童会活動を積極的に活用し，体力づくりの提案を児童と共に計画していく。
1	子どもの学びを支える環境づくり		継続	児童の姿を丁寧に見取りながら対応し，児童が楽しく通える学校づくりをする。	全教職員で情報を共有し，関係者を中心に，組織的な取組を行う。	・保護者アンケート「わが子は，楽しく学校に通っている」肯定的評価９０%以上	・保護者アンケート「わが子は，楽しく学校に通っている」と肯定的評価をした保護者は97.4%であり，指標を上回った。	３	３	・一人一人の児童が活躍する場を保障し，自己肯定感を高めていくとともに，きめ細やかに児童と関わり，良い所を保護者に伝える。	・保護者アンケート「わが子は，楽しく学校に通っている」と肯定的評価をした保護者は96.1%で中間評価を若干下回ったが指標を上回った。子どもの学びを支える素地はできていると言える。	３	３	３	・肯定的評価　100%という更なる高みを目指し，工夫した児童の自己肯定感を高める取組，児童に関わりきる取組を進めていく。
			継続	授業づくりを行う時間を確保する。	会議等の内容を精選し，計画的に実施する。	・教職員アンケート「授業づくりを行う時間が確保されている」肯定的評価８０%以上	・教職員アンケート「授業づくりを行う時間が確保されている」と肯定的評価した教職員は87.5%であった。	３	３	・教員の働き方にメリハリが見られるようになり，働き方を共有し，更に働き方改革を進めていく。	・教職員アンケート「授業づくりを行う時間が確保されている」と肯定的評価した教職員は100%であった。放課後の時間を有効に活用できる教員が増えて来たと考える。	３	４	３	・限られた時間内で効果的な教材研究や授業準備を行い，質の高い学びを児童に提供できる教員を増やす。